

## ● 審議にあたっての背景

- 女性の社会進出は進んできたものの、DVやデートDVはなくなり、地域にはジェンダー（男らしさ、女らしさ等、社会的性別）による役割分業意識や性差別が根強く存在します。
- 性自認や性的指向への偏見や差別、無理解は、当事者が自分らしさを周囲に明らかにすることを妨げ、結果、当事者が顕在化しにくくなる負のスパイラルを生んでいます。
- 増加する外国人と地域や日本人との接点が少なく、外国人が地域に馴染めていません。同じ区民として対等性を確保するためのコミュニケーションや情報発信の手段等に課題があります。
- 地域で多世代が交流する空間が限られており、転入する多くの若者や、経験豊かな高齢者の個性や能力を生かしきれいていません。
- 障害のある人が増えるということは、社会や地域が障害を作ってしまったということでもあります。また、障害者手帳を持っていなくても、生きづらさを抱えた人もいます。